

ふれあいのまちづくり

いいまちにしましよう

地域福祉活動の推進



ふれあいネットワーク



留辺薬町社会福祉協議会

小地域ネットワークづくり

小地域ネットワーク活動とは、自治会の小地域を基盤として、住民の参加と協力により、同じ地域の中で援護が必要な方々の生活を見守り、支えていく隣人同士の助け合い活動です。

活動は、自治会及び福祉委員、民生委員児童委員、老人クラブ、ボランティアの皆さんが協働して「たすけあいチーム」をつくり地域の交流活動を進めます。

私たちをとりまく、さまざまな問題

近所の人とのふれあいが少ない

近年は、核家族化が進み、近所の人とふれあいが少なくなる傾向にあります。

特に、ひとり暮らしの高齢者や重度の障害を持った人たちは、社会参加の少なさや行動力の低下などにより、地域から孤立している人が少なくありません。



家族による介護力の低下

平均寿命が伸びている一方で、痴呆性老人の介護に関する悩みや不安も増加しています。

高齢者世帯の増加により、高齢者が高齢者を介護している、介護倒れなどがあり、家族だけでは対応しきれない場合が多くなってきています。



高齢化社会におけるひとり暮らし老人の増加

本町は既に町民の30.1%が高齢者(65才以上)となっており、高齢者人口の増加と少子化により、ひとり暮らしの老人が増加しています。

ひとり暮らしの老人は、病気やケガなどで倒れた時の不安をもっています。いざという時、近所の人に助けを求めても、ふれあいがいないため、孤立しており、誰に助けを求めていいのかわかりません。

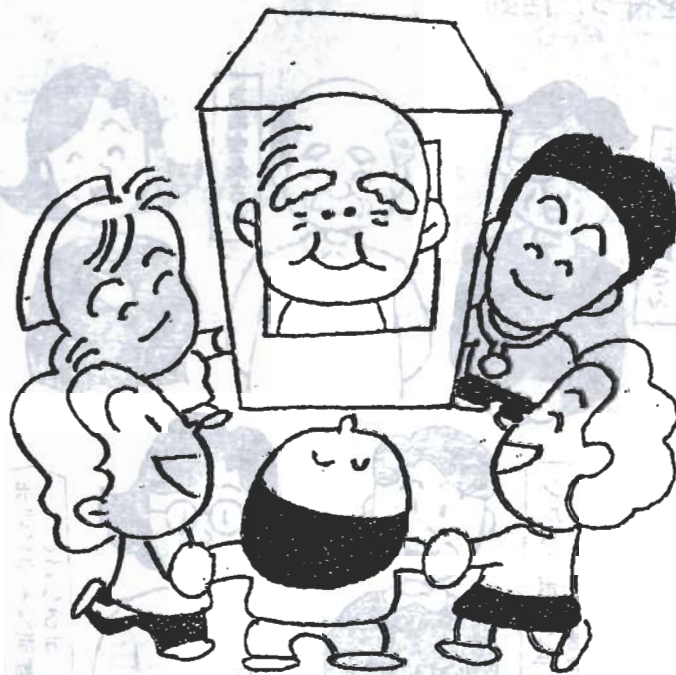


これからは地域福祉活動です

このように少子化、高齢化、核家族化は、さまざまな問題を含んでいます。この地域の問題を、みなさん一人ひとりが身近な問題と感じ、みんなで支え合って、誰もが進んで地域の人たちと協力して解決していく活動が地域福祉活動です。

地域福祉活動に決められた形のものはありません。

その地域の実情にあった住民の手による活動、それが地域福祉活動です。



安心ネットを小地域に^{ふれあいチーム}つくろう

向こう三軒両隣り、「遠い親戚より近くの他人」

- * 日頃、人間関係が疎遠だったり、孤立しがちなひとり暮らし高齢者や高齢者夫婦、あるいは寝たきり高齢者を抱える家庭、重度障害を持った方など、生活上の困難を抱えた方々を対象に「ふれあいチーム」を結成することが、複数の人びとによる見守り活動であり、日常生活の援助活動です。
- * 「ふれあいチーム」は、社協の役員、自治会の役員、福祉委員、民生委員児童委員、近隣ボランティア、老人クラブ、ボランティアアドバイザー、ボランティアグループ等の方々4～5名で構成され、慣れ親しんだ在宅での自立した生活を支援する、人間的で温かみのあるきめの細かい住民福祉活動です。
- * 地域において援護を必要とする方を発見した場合は、自治会、民生委員児童委員、社会福祉協議会が連携して「ふれあいチーム」の結成に努めます。
- * 援護を必要とする方を住民の一人として守っていく「思いやり」であり、それを個人の力だけではなく、いろいろな人びとと一緒に取り組むという「合意」を持った活動です。

